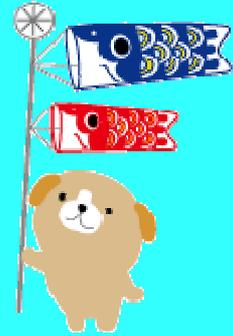


牛木商事の 《第15号》 かってにかわらばん

日本の五節句

人日(じんじつ)	/	陰暦正月七日	「七草がゆ」
上巳(じょうし)	/	陰暦3月3日	「桃の節句」
端午(たんご)	/	陰暦5月5日	「端午の節句」
七夕(たなばた)	/	陰暦7月7日	「七夕祭り」
重陽(ちょうよう)	/	陰暦9月9日	「菊の節句」



初節句のひな祭りは、身のけがれを祓う災厄除けの行事

ひな祭りは、高貴な生まれの女の子の厄除けと健康祈願のお祝いとしての「桃の節句」が、庶民の間にも定着して行ったお祝いです。

単なるお祭りではなく、お七夜やお宮参りと同じく女の赤ちゃんのすこやかな成長を願う行事、いふなればお雛さまは、赤ちゃんに降りかかろうとする災厄を、代わりに引き受けてくれる災厄除けの守り神のようなものなのです。

端午の節句は、身のけがれを祓う災厄除けの行事

端午の節句は、男の子の厄除けと健康祈願のお祝いとしての行事が、庶民の間にも定着して行ったお祝いです。

お七夜やお宮参りと同じく男の赤ちゃんのたくましい成長を願う行事です。鎧兜や五月人形や鯉のぼりは、赤ちゃんに降りかかろうとする災厄や魔物を除けてくれる魔除けであり、災厄除けの守り神のようなものです。

気持ちの問題ですが、省略せずにきちんとお祝いしてあげてください。

重陽の節句

旧暦の9月9日という現在では10月にあたり、ちょうど田畑の収穫も行われる頃、農山村や庶民の間では栗の節句とも呼ばれて栗ご飯などで節句を祝ったということです。

さかんに行われていた重陽の節句が、現代に引き継がれていないのは、旧暦から新暦にこよみに移り、まだ菊が盛んに咲く時期ではなくなってしまったことが大きいのでしょうか。

